

学校名	熊本県立南稜高等学校
-----	------------

平成 29 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

「地域を担う生命総合産業 (Total Life Industry) クリエーターの育成」

2. 研究の目的

地域の基幹産業である「農業」を食料生産の分野だけに留めず、教育・福祉・生活等あらゆる分野と融合した新総合産業分野を創造し、地域の創生へ寄与できる豊かな創造力と技術を持った人材を輩出する。また、都市部や諸外国の都市と農業文化交流を図ることでグローバルな視点を養うとともに、地域の風土・文化的資源や人的資源を活用しながら、日本文化遺産に認定された「球磨人吉地域」の伝統文化及び先人の技術や知恵の結晶を次世代に継承し、豊かな心の拠り所として地域を活性化できる実践力あるクリエイターを育成する。

※ 生命総合産業

地域及び社会のニーズを取り入れ、基幹産業である農業を軸とした新たな産業分野を「生命総合産業」と表し、そのクリエイターを本校 S P H 事業で育成する。このクリエイターたちが将来的な地域の活性化人材となって、地域及び産業の維持と発展、活性化に寄与する。

3. 実施期間

契約日から平成 30 年 3 月 15 日まで

4. 当該年度における実施計画

【具体的な人材育成目標】

各研究項目で、以下の人材を育成することにより、地域内の各産業分野で即戦力として活躍し、地域産業の活性化に貢献する。また、他分野と融合した新総合産業分野を創出し、経済的効果・就業環境の整備、発展的な産業活動の推進を果たす。地域から必要とされ、地域に根付く産業人が増えることを目標とする。具体的な数値目標としては、地域就業率 30% (平成 27 年度実績 32%、平成 28 年度実績 28%) を目指す。

平成 28 年度は、本校独自で行ってきた就農者育成プログラム「南稜就農塾」を一部改編し、地域産業のリーダー、もしくは、生命総合産業のクリエイターとなる人材を育成するモデルとして位置づけ、全学科から将来のリーダーと期待される生徒を募り、教育活動を行った。この活動や経験の中で人材育成の軸となる農業に関する見識を育んだ。また、各学科では、将来的に地域内の各産業分野で活躍する人材として必要な資質と基礎的な能力の育成を行った。

平成 29 年度は、「南稜就農塾」において育成した各科リーダーとなる生徒が各科の研究の主

軸としてリードし、リーダー及びクリエイターとしての資質・能力の向上を図る。また、各科の生徒は、2年次の研究の中で各産業分野において必要とされる産業人としての資質・能力の向上を行う。

最終年度となる平成30年度は、各科の取組みを充実・達成させて、その成果となる人材を地域内へ輩出する。また、進学者については、本校卒業・進学前に将来の目標と展望を明確化し、進学先の卒業後に地域内の各産業分野で活躍する人材となる自覚を持たせる。高校卒業後の就業者と進学者が地域内の各産業分野で連携・協働、創造的活動を行うことで、農を軸とした新総合産業分野を構築し、地域を活性化できる実践力のあるクリエイター集団が地域内に生まれ、地域の産業維持・経済復興・雇用創出・安定した豊かな生活の確保・豊かな心を持つ次世代の姿を創出する。

(1) 具体的な実践内容と計画（平成29年度1年生）

ア 南稜就農塾

(ア) 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成

学校設定科目「球磨農林学」と結び付けながら、地域の基幹産業である農業の歴史や先人の創意工夫を知り、地域の基幹作物とその由来について理解を深める。また、生徒の意識アンケート結果をもとに、地域先進農家にて生産現場の視点から地域農業の課題や自己の目標を具体化する。さらに、地域農業の課題を見つめ、その改善に向けたプロジェクト活動を推進し、2年目の活動へつなげる。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出

自己のキャリアモデルを養う職業人育成プログラムの作成に着手し、モデルプランを作り上げる。上級学校進学希望者には、情報収集や基礎学力向上等、進路決定のための支援を実施する。県内4Hクラブとの意見交換会や講演等の連携事業を強化し、身近な存在から将来の就農者像としてのモデリングを行い、自己のキャリアプラン作成に活用する。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(ウ) 南稜就農塾卒業生への追跡調査の回答結果を反映した農家研修の実施

平成24年度以降の塾在籍生へ就農塾活動の成果や課題、そして、実践してきた諸活動が現在の職業へどう結び付いているか、調査を行った。その結果、農家宿泊研修が最も効果的な研修であったとの回答から、宿泊研修を柱にし、更に効果的な農業実践学習へとつなげるため、放課後等の時間を活用した農家研修の機会を設けていく。

イ 各学科での取組

(ア) 総合農業科

a 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～

農業は食料生産及び多面的機能を持ち、地域を支える重要な構成要素であることを生徒に理解させる。そのうえで、衣食住を支える素材の生産分野についての学習へ移行し、畜産経営に必要な知識・技術教育を特化していく。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「総合実習」・「球磨農林学」]

b 地域の特色と資源を活かしたモノづくり

農業分野での商品開発とその販売戦略を学ぶ。商品開発に関する農業の事例をもとにブランド化戦略について理解を深め、知的財産と基礎的なマーケティングの視点で考えることができる人材育成を目指す。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「総合実習」・「農業と環境」]

c 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得

農業全般の基礎的・基本的な知識と栽培技術について、農業実習を通して体験的に習得する。様々な作目を栽培する中で、それぞれの特性を理解し、さらには実習をとおして、農具の使用方法や管理を学び、規範意識の高揚を図る。また、危険を事前に予測し、安全な実習を心がけるため、効率的な作業手順を理解する。（農場をGAP管理の基準に合わせて検証）。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「農業情報処理」]

d 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築

知的財産教育を含めた6次産業化に関する基礎的な知識を習得する。また、加工用原材料として、野菜や果樹に関する生産環境を確認し、安全で安心な食料生産の栽培方法と高付加価値で利用価値の高い食材の生産につなげる。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「球磨農林学」]

e 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践

農業の授業、実習をとおして作物を栽培する基礎の知識と技術の習得を目指す。また、GAP認証の基準に則り、試験施設及び圃場の整備と設備を導入し、共同研究の諸条件設定を行う。更に、地域農家及び農業法人等への継続性のある共同研究の企画と募集、依頼を行う。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「球磨農林学」]

f 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成

林業関係の仕事内容を理解する。人吉・球磨地域での林業従事者として、伐採・搬出・製材・加工などの仕事内容に対応し、即戦力としての育成を目指した知識と技術を学ぶ。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「球磨農林学」]

g 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成

建設・土木業の仕事内容を理解する。農業全般の基礎的・基本的な知識と専門技術について、農業実習及び実験を通して体験的に習得する。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「球磨農林学」]

(イ) 食品科学科

a 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～

農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識と技術を実験・実習をとおして体験的に習得する。また、県内・地域の食品製造関連企業や球磨焼酎蔵元の視察研修を実施し、食品製造関連産業について学習する。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「食品製造」・「食品化学」]

b 食の6次産業化を担う人材の育成

6次産業化の基礎知識を学習する。農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識と技術を実験・実習をとおして体験的に習得する。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・「総合実習」・「食品製造」]

(ウ) 生活経営科

a 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成

農業や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を、農業や家庭科の専門科目をとおして修得する。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・家庭「家庭総合」・家庭「ファッション造形基礎」]

b 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成

地域農村生活の歴史・現状について、文献や写真をもとに知識面の理解を進めるとともに、総合実習・販売実習・地域の農産品販売会への参加をとおして体験的に習得させる。

[実施教科「科目」：農業「農業と環境」・家庭「家庭総合」]

(エ) 普通科

a 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成 ＜体育コース＞

自然体験活動及び生涯スポーツの方法と知識を習得する。自然体験活動では、地域に潜在的に潜んでいる様々な資源（自然資源・歴史資源・人的資源など）を発掘・理解する。また、高齢化の進行している地域の実情を理解し、高齢者スポーツや障がい者スポーツについても理解を深める。地域のグリーンツーリズム研究会と連携し、活動体験から、グリーンツーリズムの理論と有用性を理解し、実践方法を学ぶ。

[実施教科「科目」：体育「スポーツⅤ」・総合「球磨地域学」]

b 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及

＜福祉コース＞

作物の栽培実習の中で、農作物の基礎的な栽培方法と知識を習得する。また、農作物や花・果樹・土・水・虫に触れて学ぶ体験をもとに、園芸福祉の観点から農業の役割と効果を理解する。

[実施教科「科目」：福祉「社会福祉基礎」・総合「球磨地域学」]

(2) 具体的な実践内容と計画（平成29年度2年生）

ア 南稜就農塾

(ア) 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成

地域農業（ローカルスタンダード）の価値を理解した経験をもとに、生徒の希望及び作目を加味したうえで海外農業研修を実施する。地域農業の強み、弱み等の課題を念頭に、グローバルな視点を取り入れたプロジェクト活動の継続研究を推進していく。また、生産学習をベースに地域の特色を打ち出す地理的表示保護制度を活用できる人材を養う。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(イ) 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出

外部有識者を加えた委員会を開催し、その中で生徒一人一人のプログラムを見直し、改善を図る。また、三年目に実施する繁殖講習会に向け、夏期休業中に実地研修を行い、知識や技術を深めさせ、資格取得に向けた意識の高揚を図る。生徒のニーズを確実に把握

握し、フラワーアレンジや作物栽培に関係する高度な資格取得に向けた講習会を実施する。進学希望者については、大学のオープンキャンパスをはじめ、大学訪問を活発に行っていく。県内4Hクラブとの意見交換会や講演等の連携事業を強化し、身近な存在から将来の就農者像としてのモデリングを行い、自己のキャリアプラン作成に活用する。

[実施教科：南稜就農塾の活動の中で実施する]

(ウ) 南稜就農塾卒業生への追跡調査回答結果を反映した農家研修の実施

平成24年度以降の塾在籍生へ就農塾活動の成果や課題、そして、実践してきた諸活動が現在の職業へどう結び付いているか、調査を行った。その結果、農家宿泊研修が最も効果的な研修であったとの回答から、宿泊研修を柱に更に効果的な農業実践学習へとつなげるため、放課後等の時間を活用した農家研修の機会を設けていく。

継続した調査を実施するとともに、調査項目の工夫や調査方法を工夫することで、課題を抽出し実践的な取組となるように改善する。

イ 各学科での取組

(ア) 生産科学科

a 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～

グローバル化が進む農業において、農業分野の知的財産に関する動向をつかむとともに、全国の実践事例から農業経営の成功事例を収集し、それらを教材として問題解決能力を養う。また、講師を招いての講演会や視察研修を授業へ取り込み、経営感覚の醸成を図る。ケースメソッドを導入し、討論型授業を組み入れ、ケースをもとにした分析や意志決定訓練を繰り返し行い、実践能力を養う。インターンシップにて希望者は実際の農業経営に触れ、高度な飼育技術の習得を目指す。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「総合実習」]

b 地域の特色と資源を活かしたモノづくり

外部機関と連携しマーケティング・デザインに特化した学習を行い、農産物の物語性やパッケージデザイン、マーケティング、コミュニケーション力を身に付けるとともに、農畜産物の商品化やブランド化に関わる知的財産戦略を検討し、地域農業に寄与できる力を身に付ける。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「総合実習」]

(イ) 園芸科学科

a 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得

地域農業に関する視察及び体験、研修等を実施し、地域内の農業の現状と特性、課題を理解する。GAP認証に向けた農場の環境整備を行い、生徒や職員などの安全面にも重点を置き、より安全・安心な生産物を提供するため、高い生産管理体制を確立し、プロジェクト学習において実践する。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「野菜」・「総合実習」]

b 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築

「南稜産特性100%野菜ジュース」の試作を行う。食品製造及び加工の基礎・基本的な知識と技術を習得する。生活経営科と連携し、栄養価を考慮した原材料の加工と調合、レシピ作成を行う。校内での試飲と評価を行う。

[実施教科「科目」：農業「農業経営」・「野菜」・「果樹」]

c 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践

地域農家の課題を明確にし、共同研究者が研究及び試験設定を行い、実践的共同研究を行う。また、共同研究者と学校の役割及び実施内容を明確にし、栽培管理・調査・検証の研究及び研究に必要な資材等の競技を行い、実施していく。共同研究者の指導と技術支援のもと、栽培技術の習得と実践を行う。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「草花」・「果樹」・「農業情報処理」]

(ウ) 食品科学科

a 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～

熊本県産業技術センター及びアグリビジネスセンターでの視察・研修を実施し、地域の食品開発センターの役割を理解する。また、地域の食品製造関連企業でのインターンシップ及び球磨焼酎蔵元での醸造実習を実施し、地域内の加工品開発の現状、特性、課題を理解する。さらに、将来の職業選択を考慮した地域課題の解決に向けた産学官連携による共同研究を企画する。（球磨焼酎関連研究及び地域資源を活用した加工品）

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「食品製造」・「食品化学」・「微生物利用」]

b 食の6次産業化を担う人材の育成

熊本県産業技術センター及びアグリビジネスセンターでの視察・研修を実施し、地域の農業や解決すべき課題について調査研究を行い、マーケティング及び知的財産権の基礎知識を学習する。地域の農畜産物を高付加価値化する産学官連携による特産品開発の提案を検討する。

[実施教科「科目」：農業「総合実習」・「食品製造」・「農業情報処理」]

(エ) 環境工学科

a 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成

林業関係の仕事を体験する。林業ガイダンスの視察や体験、インターンシップなどを実施し、地域内の林業関係の職業理解と現状や課題について学習していく。

[実施教科「科目」：農業「森林科学」・「測量」・「総合実習」]

b 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成

建設・土木業の仕事を体験する。建設産業ガイダンスの視察や体験、インターンシップなどを実施し、地域内の建設産業の現状と特性を知り、課題を理解する。また、日頃の専門教科の学習活動を積み重ねプロジェクト活動に生かしていく。

[実施教科「科目」：農業「測量」・「農業土木施工」・「総合実習」]

(オ) 生活経営科

a 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成

健康と食生活の関わりについて理解させ、豊かな食事を構成する要素として、栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどの関する知識と技術を習得させ、学習を生かして家庭や地域において、食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。また、インターンシップや職場見学に行き、地域資源と産業の関わりについて体験的に理解を進める。

[実施教科「科目」：農業「小動物」・家庭「子どもの発達と保育」・家庭「ファッション造形」家庭「フードデザイン」・家庭「服飾文化」]

b 農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成

人吉・球磨地域の伝統行事（しゅんなめじょ、三十三観音巡り等）の調査・研究活動や、科目「小動物」などの交流学习をとおして、伝統食や生活習慣、伝統文化の必要性を理解し、生活技術・コミュニケーション能力の向上を図る。

[実施教科「科目」：農業「小動物」・家庭「子どもの発達と保育」・家庭「ファッション造形」・家庭「フードデザイン」・家庭「食品」]

(3) 南稜版学習到達度評価方法『LAEM for Nanryou ※』

※ LEARNING ACHIEVEMENT EVALUATION METHOD FOR NANRYOU HIGH SCHOOL の略

ア 定性評価

(ア) 内部評価

a 実践者としての意欲・意識・理解・態度の変容を捉える調査

将来的な達成目標を考慮し、1年次～3年次まで共通した内容で到達度や達成状況を測る調査を実施する。平成29年度1年生は4段階の総合評価で評価平均2以上、2年生は評価平均2.5以上を目標とする。

b 研究及び研修内容に関する調査

研究や研修の実践前後で変容や学習成果の習熟度を捉えるアンケート調査を実施する。4段階の総合評価で評価平均2以上を目標とする。

(イ) 外部評価

研究の推進及び運営指導に携わる各分野の有識者、本校SPH活動の理解者等によるアンケート調査を実施する。4段階の総合評価で評価平均2.5以上を目標とする。

(ウ) 研究の成果として生徒の変容が捉えられる実技評価

生徒の知識、技能、意欲等の伸長や変容を映像として記録し、生徒の力量の把握と、SPHの取組の効果を視覚的に測定する。

年次毎の目標達成に関する課題を設定し、実技を評価・記録する。4段階の総合評価で評価平均3以上を目標とする。

(エ) ポートフォリオ評価

研究及び関連学習の成果（自己評価等）や記録をまとめ、振り返りと再学習へ活用する。各自が作成したポートフォリオを自己及び相互分析し、評価する。4段階の総合評価で評価平均3以上を目標とする。

【平成29年度1年生】

※平成29年度は、総合農業科と普通科（体育・福祉コース）を新設する。

研究対象	研究内容	定性目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・農業専門分野の理解及び興味・関心向上 ・地域内農業関係進路意欲の向上 ・農家宿泊研修及び企業研修実践 ・農家研修 	内部及び外部評価 テキストマイニング
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアモデルプランに沿った将来設計書作成 ・農業関連の進学意欲向上 ・高度な資格取得への意欲向上 	内部及び外部評価 活動評価 キャリアプラン

総合農業科	3 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解向上 ・アイデアの具体化と表現力の向上 ・知的財産の理解向上 	内部及び外部評価 活動評価
	4 地域の特徴と資源を活かしたモノづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化の理解 ・マーケティングの理解向上 	内部及び外部評価 活動評価
	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の栽培体系の理解と技術の向上 ・GAP 認証基準の理解 	内部及び外部評価 活動評価
	6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解向上 ・原材料(農作物)の理解 ・6次産業化の理解 	内部及び外部評価 活動評価
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解向上 ・農業生産技術及び栽培管理の理解 	内部及び外部評価 実技評価
	8 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農林業の理解向上 ・環境保全意識の向上 ・地域環境及び資源の理解向上 	内部及び外部評価 実技評価
	9 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境の理解 ・環境保全意識の向上 	内部及び外部評価 実技評価
食品科学科	10 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学及び研修実施 ・地域特産物及び特産品の理解 ・地域農業の理解向上 	内部及び外部評価 活動評価
	11 食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特産物及び特産品の理解 ・地域農業の理解向上 ・6次産業化の理解 	内部及び外部評価 活動評価
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得 	内部及び外部評価 活動評価
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農村社会の歴史・文化・生活についての理解 	内部及び外部評価 活動評価
普通科	14 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成(体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然体験活動の理解 ・地域環境及び資源の理解向上 ・高齢者スポーツ、障がい者スポーツの理解 	内部及び外部評価 活動評価
	15 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及(福祉コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸福祉及び園芸療法の理解 ・地域の福祉施設の理解 	内部及び外部評価 活動評価

【平成29年度2年生】

研究対象	研究内容	定性目標	効果測定
南 稜 就 農 塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業への課題意識と解決力の向上 ・地域内農業関係進路意欲の向上 ・地理的表示保護制度の活用 	内部及び外部評価 テキストマイニング ルーブリック評価
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアモデルプランに沿った将来設計書作成 ・農業関連の進学意欲向上 ・高度な資格取得への意欲向上 	内部及び外部評価 活動評価 キャリアプラン
生 産 科 学 科	3 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産学習の深化と意欲向上 ・農業経営への意識と経営感覚の醸成 ・地域農業の課題解決意識の向上 	内部及び外部評価 活動評価
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化意欲の向上 ・マーケティングの理解向上 ・コミュニケーション力の向上 	内部及び外部評価 活動評価
園 芸 科 学 科	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP 認証基準の理解と実践力向上 ・既存の栽培体系の理解と改善意欲の向上 	内部及び外部評価 活動評価
	6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造・加工における技術及び知識の習得 ・原材料(農作物)の品質向上 ・6次産業化の理解と実践意欲の向上 	内部及び外部評価 活動評価
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の理解と貢献意欲の向上 ・農業生産技術及び栽培管理の理解 ・共同研究の理解と実践力向上 	内部及び外部評価 活動評価
食 品 科 学 科	8 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	<ul style="list-style-type: none"> ・食品開発センターとしての理解と意欲向上 ・インターンシップ及び醸造実習での職業理解 ・地域特産物の理解と商品開発・企画力向上 	内部及び外部評価 活動評価
	9 食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の理解と実践意欲の向上 ・マーケティングの理解と商品企画の提案力向上 ・6次産業化の実践意欲向上 	内部及び外部評価 活動評価
環 境 工 学 科	10 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ及び体験活動での職業理解 ・地域林業への理解と改善意欲の向上 ・地域環境及び資源の理解向上 	内部及び外部評価 活動評価
	11 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ及び体験活動での職業理解 ・地域環境の理解と改善意欲の向上 ・環境保全意識の向上 	内部及び外部評価 活動評価
生 活 経 営 科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・食育への意識及び推進意欲の向上 ・インターンシップ・職場見学成果 	内部及び外部評価 活動評価
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化への理解向上 ・コミュニケーション能力の向上 	内部及び外部評価 活動評価

イ 定量評価

(ア) 「南稜版SPH到達度テスト」問題開発

「南稜版SPH到達度テスト」問題を開発し、研究活動に関する理解度や学習の定着度、知識を測るペーパーテストを実施する。目標値は正答率60%以上とし、目標達成者数60%以上を目指す。

(イ) 研究内容に関する課題を提示し、技能を図る実技試験の実施

年次毎の目標達成に関する課題を設定し、実技試験で評価する。目標値は4段階評価で評価3以上とし、目標達成者数60%以上を目指す。

(ウ) 研究内容に関する資格取得の状況（チャレンジ数・合格数及び合格率）評価

関連資格及び検定の合格者数60%以上を目標とする。

(エ) 研究内容に関する課題レポートを実施

関連する課題レポートの提出率100%、4段階の総合評価で評価3以上を目指し、目標達成者60%以上を目標とする。

(オ) 研究関連科目のペーパーテスト

関連科目の評価平均で50点以上を目標とし、目標達成者数80%以上を目指す。なお、評価結果の度数分布により、ボリュームゾーンの推移、成績下位者及び上位者の推移、下位者の課題分析を行う。

(カ) 農業鑑定競技の到達度

2回の校内試験の最終成績で評価する。1年生は正答率37%（15問正解）以上、2年生は正答率50%（20問正解）以上を目標とする。

(キ) 現場実習外部評価 ※ 2年生のみ

派遣先事業所等の外部評価を行い、目標は4段階の総合評価で評価2.5以上とする。

【平成29年度1年生】

研究対象	研究内容	定量目標	効果測定
南稜就農塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	・進路目標に合わせたキャリアプラン作成 ・農家研修及びプロジェクト学習成果報告 ・郷土史、農業に関する書籍5冊以上借入	キャリアプラン 課題レポート、貸出書籍数 研修参加数
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	・進学模試で評価C評価以上 ・関連科目の評点平均60点以上	模試判定 ペーパーテスト
総合農業科	3 「持続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・農業技術検定3級校内模試平均40点以上 ・熊本県学校農業クラブ連盟主催競技会出場	ペーパーテスト 実技テスト 競技会評価
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり	・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・農業関連科目の評点平均50点以上 ・課題レポート及び報告会評価	実技テスト ペーパーテスト 課題報告評価

	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・農業関連科目の評点平均 50 点以上 ・GAP 課題レポート(評価平均 50 点以上) 	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート
	6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・農業関連科目の評点(評価平均 50 点以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) 	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート 農産物評価
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・栽培試験成果報告(全体で1件以上報告) ・農業関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 成果報告書 ペーパーテスト
	8 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・農業関連科目の評点(評価平均 50 点以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) 	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート
	9 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・農業関連科目の評点(評価平均 50 点以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) 	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート
食品科学科	10 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 ・商品開発課題レポート(評価平均 50 点以上) 	実技テスト 資格・検定合格率 ペーパーテスト 課題レポート
	11 食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 資格・検定合格率 ペーパーテスト
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解と創造的活動実践(年1回以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統・文化の理解と継承活動(年1回以上) ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト
普通科	14 農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーター育成(体育コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動及び生涯スポーツの理解と実践(年1回以上) ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・実践課題レポート(評価平均 50 点以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 課題レポート ペーパーテスト
	15 園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及(福祉コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・課題レポート(評価平均 50 点以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 課題レポート ペーパーテスト

【平成29年度2年生】

研究対象	研究内容	定量目標	効果測定
南 稜 就 農 塾	1 地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプランの達成レベル(1～4段階) ・海外農業派遣研修(1件以上) ・農家研修及びプロジェクト学習成果報告 ・農家・企業等体験研修(2件以上) 	課題レポート キャリアプランの達成段階評価 報告書評価
	2 高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・関連資格・検定2級受験、合格率50%以上 ・進学模試で評価C+評価以上 ・関連科目の知識向上(評価平均65点以上) 	資格受験数 資格取得率 模試判定 ペーパーテスト
生 産 科 学 科	3 「永続性」を持った農業教育実践と人材育成～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均65点以上) ・農業技術検定3級合格(平均60点以上) ・現場実習外部評価(平均2.5以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 検定合格率 現場実習外部評価
	4 地域の特色と資源を活かしたモノづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均65点以上) ・農業技術検定3級合格(平均60点以上) ・現場実習外部評価(平均2.5以上) 	ペーパーテスト 課題報告評価 検定合格率 現場実習外部評価
園 芸 科 学 科	5 生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均65点以上) ・関連資格・検定合格率(40%以上) ・GAP課題レポート(評価平均50点以上) ・現場実習外部評価(平均2.5以上) 	実技テスト ペーパーテスト 検定合格率 課題レポート 現場実習外部評価
	6 6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均65点以上) ・関連資格・検定合格率(40%以上) ・課題レポート(評価平均50点以上) ・現場実習外部評価(平均2.5以上) 	実技テスト ペーパーテスト 課題レポート 検定合格率 現場実習外部評価
	7 地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の企画(全体で2件以上実施) ・栽培試験成果報告(全体で1件以上報告) ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均65点以上) ・現場実習外部評価(平均2.5以上) 	企画レポート 成果報告書 実技テスト ペーパーテスト 現場実習外部評価
食 品 科 学	8 地域の食品開発センターとしての確立～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均60点以上) ・商品開発及び協力数(1商品以上) ・現場実習外部評価(平均2.5以上) 	ペーパーテスト 実技テスト 商品開発・協力数 現場実習外部評価

科	9 食の6次産業化を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均 60 点以上) ・商品開発課題レポート(評価平均 50 点以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) 	実技テスト 課題レポート ペーパーテスト 現場実習外部評価
環境工学科	10 地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均 65 点以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) 	実技テスト ペーパーテスト 現場実習外部評価
	11 農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年次課題実技テスト(実践評価平均3以上) ・関連科目の知識向上(評価平均 65 点以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・現場実習外部評価(平均 2.5 以上) 	実技テスト ペーパーテスト 現場実習外部評価
生活経営科	12 地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解と創造的活動実践(年1回以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト 現場実習外部評価
	13 農村・地域社会と文化の伝承と継承ができる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統・文化の理解と継承活動(年1回以上) ・年次課題実技テスト(評価平均3以上) ・関連資格・検定合格率(50%以上) ・関連科目の評点平均 50 点以上 	実技テスト 資格・検定合格率 課題レポート ペーパーテスト 現場実習外部評価

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
佐藤 浩臣	教諭	研究主任・企画運営・成果報告・教科「農業」(園芸)
柿本 剛	教諭	研究副主任・企画運営・園芸科学科主任・教科「農業」(園芸)
中村 弘美	教諭	研究副主任・成果報告・効果測定・食品科学科主任・教科「農業」(食品)
鶴本 信也	教諭	農場長・企画運営・教科「農業」(園芸)
吉永 憲生	教諭	生産科学科主任・南稜就農塾・教科「農業」(畜産)
白石 栄二	教諭	環境工学科主任・教科「農業」(農業土木)
西口 紀子	教諭	生活経営科主任・教科「家庭」(家庭)
出合 妙子	教諭	普通科主任・教科「地歴」(地理)
廣嶋 秀一	教諭	教務主任・総務企画・教科「地歴」(地歴)
井上 健太	教諭	総務企画・効果測定・教科「数学」(数学)
守屋 徳隆	教諭	進路指導主事・教科「理科」(理科)
多田 太郎	教諭	効果測定・検証・記録・教科「農業」(農業)

栗原 健	教諭	効果測定・検証・記録・教科「農業」(園芸)
早瀬 寿樹	教諭	効果測定・検証・記録・教科「農業」(林業)
城戸真由子	教諭	効果測定・検証・記録・教科「家庭」(家庭、福祉)
池田 秀作	教諭	N I C C・教科「外国語」(英語)
清永 彰	教諭	体育主任・効果測定・検証・記録・教科「保健体育」(保健体育)
中川 由紀	教諭	福祉主任・効果測定・検証・記録・教科「福祉・家庭」(福祉)
富永 奈子	教諭	会計・教科「農業」(園芸)
松本 紗依	教諭	会計・検証・記録・教科「農業」(食品)
小馬田 裕	事務主査	事務・会計
荒毛 瑞穂	事務職員	事務・会計

(2) 研究推進委員会

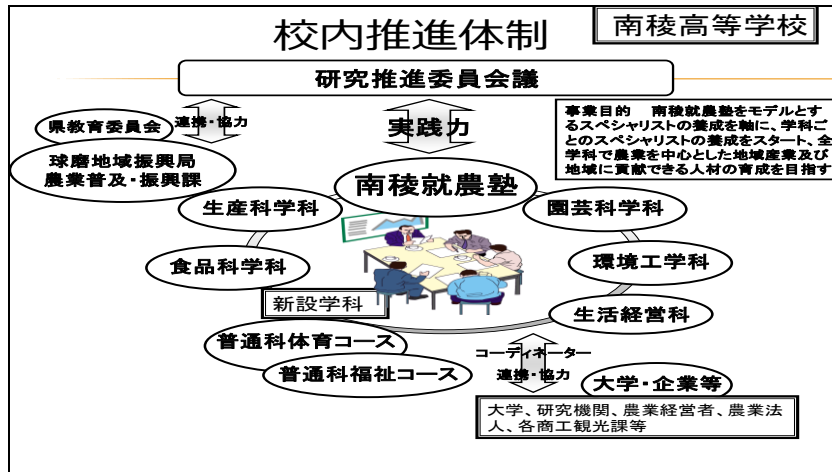
氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
横山 耕二	オフィスチェイカス代表 中小企業診断士・共育塾メンター	推進指導委員 統括
深水 吉人	熊本県指導農業士連絡協議会会長	推進指導委員
長田 伸一	球磨地域振興局農業普及・振興課長	推進指導委員
甲斐 真也	あさぎり町役場 農業振興課長	推進指導委員
福田 勝徳	球磨地域農業協同組合長	推進指導委員
草野 貴光	熊本県教育庁教育指導局高校教育課主幹	推進指導委員
櫻井 祐二	熊本県立教育センター 情報教育研修室指導主事	推進指導委員 効果測定・評価
紫藤 光一	熊本県立南稜高等学校 校長	推進委員
柳田 壽昭	熊本県立南稜高等学校 教頭	推進委員
松本 博文	熊本県立南稜高等学校 主任事務長	推進委員
佐藤 浩臣	熊本県立南稜高等学校 教諭(研究主任)	研究担当者
柿本 剛	熊本県立南稜高等学校 教諭(研究副主任)	研究担当者
中村 弘美	熊本県立南稜高等学校 教諭(研究副主任)	研究担当者
鶴本 信也	熊本県立南稜高等学校 教諭(農場長)	研究担当者
吉永 憲生	熊本県立南稜高等学校 教諭(南稜就農塾)	研究担当者

(3) 運営指導委員会

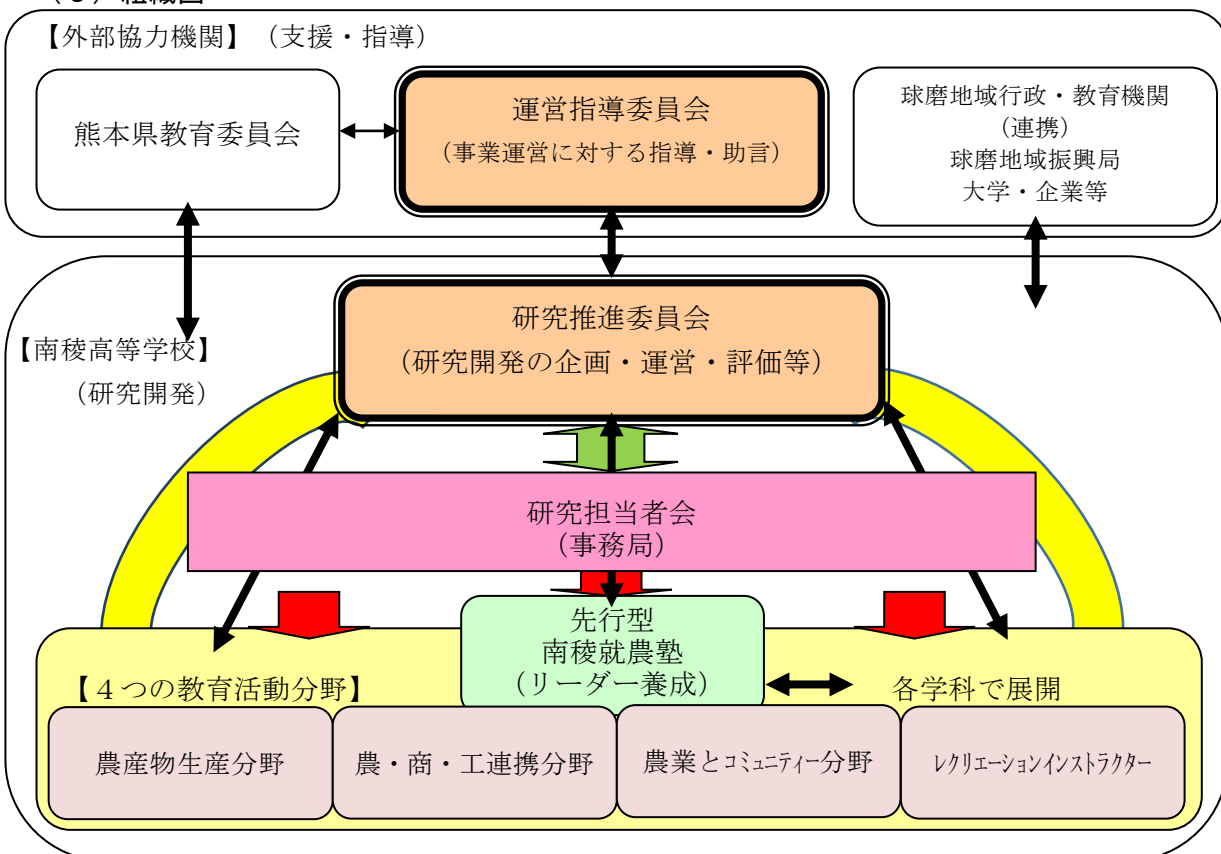
氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
木之内 均	有限会社木之内農園 取締役会長	農業関係(会長)
木下 統	国立大学法人宮崎大学農学部植物生産環境科学科 准教授	学識経験者(副会長)
高崎 文子	国立大学法人熊本大学教育学部 准教授	学識経験者
西 和人	市房観光株式会社取締役	地域活用関係
大津 愛梨	NPO法人田舎のヒロインズ会長	再生可能エネルギー開発

	(O2Farm)	・農村文化の創出
長尾 成敏	有限会社長尾農産 代表取締役社長	農業関係
鳥井 修	農林水産部生産経営局 農地・担い手支援課長	農政関係
牛田 卓也	熊本県教育庁教育指導局 高校教育課長	学校教育

(4) 校内における体制図



(5) 組織図



6. 研究内容別実施時期

【2年次の活動計画】

実施時期	活動内容	研究内容 ※
4月	GAP認証に合わせた生産環境の見直しと検証（園芸科学科2年） 共同研究内容の検討（園芸科学科2年） 進路希望調査①（全学科） 南稜就農塾説明会（全学年）	5 7 1
5月	地域理解の講演会①（南稜就農塾） 地理的表示保護制度における研修（南稜就農塾） GAP認証に合わせた生産環境の改善と整備①（園芸科学科2年） GAP取組宣言（園芸科学科） 南稜産野菜ジュース用原材料の生産と検討①（園芸科学科2年） キャリアプランの作成（南稜就農塾） ニッポンの宝物コラボグランプリ（南稜就農塾） 研究推進委員会① 全学科共通SPH意識調査①（全学科） 管内事業所訪問	1 1 5 5 6 1 1
6月	地域課題解決プロジェクト学習（南稜就農塾） 地域就農教育検討会議①（南稜就農塾） 地域農家との連絡協議会①（南稜就農塾） GAP認証に合わせた生産環境の改善と整備②（園芸科学科2年） 「先達に学ぶ」講演会（各科） 運営指導委員会① GAPの講演会（園芸科学科・総合農業科） 共同研究栽培技術研修（園芸科学科・総合農業科） 管外事業所訪問 産業人育成講演会（全学年）	1 2 1 5 5 7
7月	地域農家との連絡協議会②（南稜就農塾） 地域理解の講演会②（南稜就農塾） 先進地視察研修（食品科学科1年） 食品加工技術研修会①（食品科学科2年） インターンシップ及び職場体験研修（全学科）・（南稜就農塾） ロゴマーク作成研修①（生産科学科2年） 最先端測量技術研修（環境工学科） 果樹栽培技術研修（園芸科学科） 障害者スポーツの理解①（普通科）	1 1 8・9 8・9 1・4・7・9・11・12 4 10・11 7 14
8月	地域農家との連絡協議会③（南稜就農塾） 宿泊型農家研修（南稜就農塾） 県立農業大学校主催の「緑の学園」への参加（希望者） 共同研究の企画検討会議（園芸科学科2年） 研究推進委員会②	1 1 2 7

	産業技術センター・アグリビジネスセンター視察・研修（食品科学科2年生）	8・9
9月	南稜産野菜ジュース用原材料の生産と検討②（園芸科学科）	6
	GAP認証に向けた取り組み（園芸科学科2年・総合農業科1年）	5
	協同研究中間報告会（園芸科学科2年）	7
	大学視察研修（南稜就農塾）	2
	ロゴマーク作成研修②（生産科学科2年）	4
	郷土料理・伝統行事の調査・研修（生活経営科2年）	12・13
10月	地域理解の講演会③（南稜就農塾）	1
	マーケティング研修（食品科学科2年）	9
	高性能林業機械研修（環境工学科2年）	10
	先進農家視察研修（生産科学科2年・園芸科学科2年）	4・7
	GAPの講演会（園芸科学科2年・総合農業科1年）	5
	球磨人吉畜産共進会参加（生産科学科2年・総合農業科1年）	2・3
	南九州大学社会園芸学指導者研修（普通科福祉コース1年）	15
	研究推進委員会③	
11月	食品加工技術研修会②（食品科学科1年）	8・9
	球磨焼酎蔵元での醸造実習（食品科学科2年）	8
	「食と命の授業」育成鶏の解体・調理実習（生活経営科1年）	13
	花卉栽培技術研修（園芸科学科2年）	7
	障害者スポーツの理解②（普通科）	14
	畜産（繁殖）職員研修（南稜就農塾）	2
	初級園芸福祉士養成講座職員研修（普通科福祉コース）	15
	郷土愛醸成講演会（全学年）	
	産業教育フェア視察・SPH事業報告会（運営担当者）	
12月	先進農家視察研修（生産科学科2年）	3
	球磨地方4Hクラブとの活動発表交流会（南稜就農塾）	2
	GAP審査・認証実地研修（園芸科学科2年）	5
	果樹栽培技術研修（園芸科学科2年）	7
	球磨焼酎蔵元の工場見学（食品科学科1年）	8・9
	キャリアプランの達成評価（南稜就農塾）	2
	生活産業職場体験（生活経営科2年）	12・13
	農業土木ガイダンス（環境工学科2年）	11
	建設業ガイダンス（環境工学科2年）	10
	体育コース研修（普通科体育コース）	14
	研究推進委員会④	
	運営指導委員会②	
	進路希望調査（全学科）	
	全学科共通SPH意識調査②（全学科）	

1月	共同研究の企画検討会議（園芸科学科） 教職員の先進地視察研修（各科指導担当者） 障がい者スポーツの理解③（普通科）	7 2・4・7・8・10・13 14
2月	管内熊本県農業コンクール受賞者及び農家の視察（南稜就農塾） 就農者・林業従事者激励会の実施（南稜就農塾） 『進学プロジェクト』参加（南稜就農塾※国公立進学希望者） アグリビジネスセンター視察研修（園芸科学科2年） 南稜産野菜ジュースの試作（園芸科学科2年・総合農業科1年） 福祉施設での農業演習（普通科福祉コース） 間伐実習（環境工学科2年） 地域就農教育検討会議②（南稜就農塾） 就農激励会（南稜就農塾） SPH研究校年次報告会 2年次成果報告会 研究推進委員会⑤ 文部科学省継続審査	2 2・10・11 2 6 6 15 10 1 1
3月	校内プロジェクト発表会での成果報告（全学科） 文部科学省へ事業完了報告書等を提出	1・6・9・11・13
通年※4	①農業全般の基礎・基本的な知識の学習と技術の習得（全学科） ②関連資格及び検定の取得に向けた学習及び試験（全学科） ③上級学校進学に向けた受験対策及び進路指導（全学科・南稜就農塾） ④知的財産権に関する学習活動（全学科） ⑤6次産業化と知的財産に関する基礎学習 （南稜就農塾・総合農業科・生産科学科・園芸科学科・食品科学科・生活経営科） ⑥環境に配慮した持続可能な農業の実践 （総合農業科・生産科学科・園芸科学科・生活経営科・普通科福祉コース） ⑦農畜産物の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生・分析などに関する基礎的・基本的な知識の学習と技術の習得 （生産科学科・食品科学科・園芸科学科・南稜就農塾） ⑧学校演習林の保育（環境工学科） ⑨GAP指導員要請講習会（園芸科学科職員） ⑩農産物の新規導入及び技術向上を目指した研究（園芸科学科2年） ⑪産学官連携による共同研究及び商品開発（食品科学科） ⑫研究担当者会 ⑬地域理解・担い手意識向上に向けた人吉球磨塾の講演会（全学科） ⑭農家研修（南稜就農塾）	2 2・3・6・9・13 1・5・12・15 4・6・8・9 10 5 7 8・9 2

※ 初年度の活動計画に記載された「研究内容」の番号は、対象別研究内容（下表）の「研究項目番号」の数字に対応する

【対象別研究内容】

研究項目番号	研究内容	対象
1	地域農業の課題探究型学習による知識・技術の習得及び郷土愛の醸成	南稜就農塾1・2年
2	高度な資格取得及び上級学校への進学者輩出	南稜就農塾1・2年
3	「永続性」を持った農業教育実践と人材育成 ～ケースメソッドと知的財産教育を柱とした教育実践～	生産科学科2年 総合農業科1年
4	地域の特色と資源を活かしたモノづくり	生産科学科2年 総合農業科1年
5	生産環境の維持・管理のために必要な知識と実践的技術の習得	園芸科学科2年 総合農業科1年
6	6次産業化人材の育成とモデルケースの構築	園芸科学科2年 総合農業科1年
7	地域への農作物及び技術の新規導入と普及を目指した研究実践	園芸科学科2年 総合農業科1年
8	地域の食品開発センターとしての確立 ～共同研究による商品開発及び分析の拠点～	食品科学科1・2年
9	食の6次産業化を担う人材の育成	食品科学科1・2年
10	地域林業の実践リーダー及び経営管理能力者の育成	環境工学科2年 総合農業科1年
11	農村環境の保全と開発に従事する技能者育成	環境工学科2年 総合農業科1年
12	地域の生活環境と農村生活・健康を支える人材の育成	生活経営科1・2年
13	農村・地域社会及び文化の伝承と継承ができる人材育成	生活経営科1・2年
14	農業の多面的機能を活かした自然体験活動及び生涯スポーツのコーディネーターの育成	普通科体育コース 1年
15	園芸療法及び園芸福祉の技能習得と地域内への導入と普及	普通科福祉コース 1年

※実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
実績なし	余白	余白	余白	余白

8. 知的財産権の帰属

- (○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
() 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

II 委託事業経費
別紙1に記載

III 事業連絡窓口等
別紙2に記載